



2024年度 活動報告(案)

樹木・環境 ネットワーク協会

もくじ

P4. トピックス

P13. 事業別報告

P24. 会員

P25. 役員・職員

P27. 財務報告

2024年度は、前年に引き続き、活動が広がった1年でした。海の森公園のオープン、企業の森づくり活動の始動、まちづくりのコーディネート、グリーンセイバー検定の変革など、自然や森づくりにかかわる社会のニーズが多岐にわたってきていることを感じます。

2025年は、当協会の設立30周年を迎えます。里山保全活動や検定による人材育成などから始まった私たちの活動ですが、この30年、会員の皆さんはじめ、多くの方々に支えられ、活動を進めてくることができました。これからの10年はどんな時代になっていくのか、引き続き人と自然と調和した持続可能な社会を目指し、歩んでいきたいと考えています。

次のステップに向けて、引き続き、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会
理事長 清水 善和

ミッション

人と自然が調和する 持続可能な社会をめざして

人の暮らしと自然の豊かさを保つことを両立し「持続可能な社会」を実現するためには、より多くの人々が自然とふれあい、自然について学び、自然の美しさや重要性を実感することが必要です。私たちはそんな思いを共有する人々に支えられて、活動を展開してきました。人々の思いを集め、森や里山、そして社会へ届けるために集う場所であり続けたい。樹木・環境ネットワーク協会の「聚（しゅう、『集』の旧字体）」という愛称には、そんな思いが込められています。



活動目的

森づくりや里山再生、人材育成、普及啓発活動などを実践しながら、「人と自然が調和する持続可能な社会」を目指す。





- TOPICS 1 海の森公園グランドオープン
子どもレンジャー本格スタートへ
- TOPICS 2 まちだみどり活用ネットワーク「シンポジウム・ワークショップ」
- TOPICS 3 清泉女子大学の整備活動&イベント
- TOPICS 4 GS検定の拡大
- TOPICS 5 関西の活動～ユニソルの森、活樹祭

事業実績

	2023年度	2024年度
活動回数のべ	43回	43回
参加者数のべ	1,395名	989名
指導者数	160名	244名

※人数に不特定多数を対象としたイベントの参加者は含めない

※GS、会員、一般・外部講師含む

※環境コミュニケーション事業、グリーンセイバー事業に該当する活動





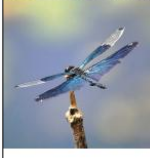
海の森公園

UMI-no-MORI Park











みんなでつくる海の上の森

海の森公園は、東京港に浮かぶ、ごみと建設廃生土で埋め立てられた「ごみの山」に苗木を植え、美しい森に生まれ変わらせるプロジェクトにより整備を進めてきた公園です。
海の森プロジェクトは、次の2つのコンセプトに基づいています。

1. 資源循環型の森づくり

都内から発生した剪定枝葉からたい肥をつくるなど、リサイクルの観点から大切に資源循環型の森づくりに取り組んでいます。

2. 都民参加による協働の森づくり

苗木づくりから植樹、森の育成などを都民や企業との協働で行う、都民参加型の森づくりを進めています。



海の森公園公式マスコットキャラクター
うみのもりすけ



TOPICS | - | 海の森公園グランドオープン

「海の森」は東京港のごみの埋立地を美しい森に蘇らせるプロジェクトです。「資源循環」と「都民協働」をコンセプトに、苗木づくり、植樹、育林を都民の参加・協働によって進められています。当会では、長年森づくりのコーディネーターとして携わっており、植樹や普及啓発イベント、森づくりボランティア、子どもレンジャーの運営を行っています。

その海の森が25年3月末に公園としてグランドオープンとなり、グランドオープンイベントのいでも企画全般の調整や運営にも携わっています。また、公園管理がスタートし、公園設備である展示棟の展示監修、公園リーフレットの作成、公園管理への参画と、海の森公園としてのグランドオープンの一翼を担いました。



TOPICS 1-2 海の森子供レンジャーが本格スタートへ！

24年4月から25年2月までの約1年間かけて、小学2年生から中学2年生までの94名が海の森でレンジャーになるべく研修をしてまいりました。

月に1度海の森で生きものを採取・記録したり、育樹の知識を得、海の森の成り立ちを知るためにゴミについて学び、公園オープン準備として鳥の巣箱や樹名板を作成するなど幅広く知識や経験を得て学んでいきました。

当初は初対面同士で大人しかった子供達も回を重ねるごとに共通の趣味や話題での会話が増え、学年関係なく仲良くなっていく様子はもちろん、活動に取り組む姿勢を含め子供たちの成長に驚き、頼もしさを感じることが出来ました。

研修期間に記録した生きものは現在ビジターセンターに展示し、作成した巣箱や樹名板は園内をにぎやかにしてくれています。

25年3月のオープニングセレモニーでは80名の子供レンジャーが任命され、4月より本格的に子供レンジャーとしての活動をスタートさせました。

今後は生きもの調査は継続しながらも園内でビオトープの作成と調査を中心にガイドやイベントへの出店もおこなってまいります。



TOPICS 2 まちだみどり活用ネットワーク～シンポジウム・ワークショップ

23年4月より町田市と会員とが連携して、まちだの“みどり”を活用し、さまざまな活動に取り組む当ネットワークの事務局業務がスタート。24年度は実行委員会の各活動の運営サポートに加え、会の認知度向上と新メンバーの獲得を目的にシンポジウムの開催や連続ワークショップを実施しました。

・ずしまちいちの開催（24年7月）

地域の人に地元の公園の魅力を知って頂くため、自然と食を味わう“ずしまちいち”を開催。来場者約700名がさまざまな自然体験や展示、食を味わい尽くしました。

・ミツバチ&生きものファミリーワークショップの実施（24年4月・10月）

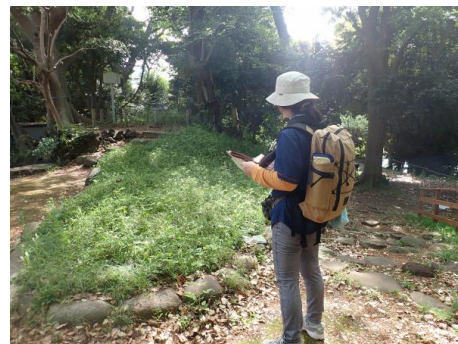
大谷里山農園にて、里山の自然観察やミツバチの巣箱観察のワークショップを実施。春・秋と大人から子どもまで自然の営みを学び楽しむ1日を過ごしました。

・シンポジウム『まちだのみどりを活かし、みどりと暮らす』（24年10月）

澁澤壽一氏の基調講演と5人のパネリストを招いてのシンポジウムを実施。みどりを活かした多彩な活動を語って頂きました。

・連続ワークショップの実施（ヨリドコ小野路宿、大谷里山農園）（25年1月・3月）

シンポジウムの続編として2回実施。地元で活動する話題提供者とみどりや農に関心を持つ参加者がさまざまな体験を通して、新たなつながりを築きました。

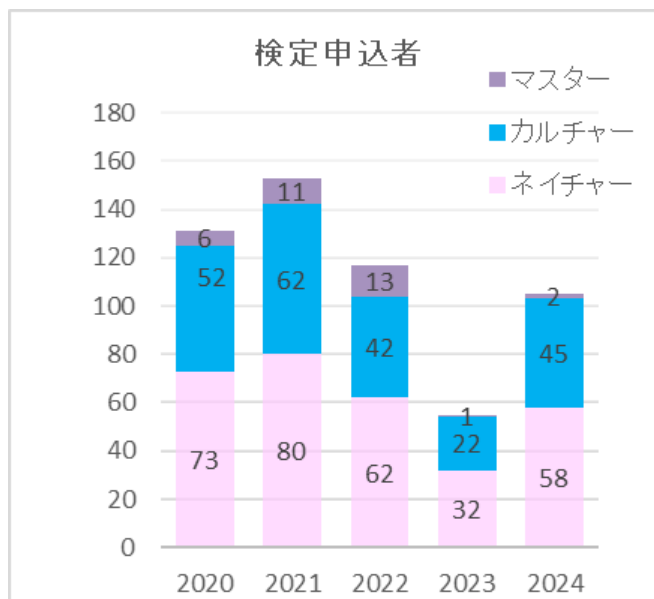
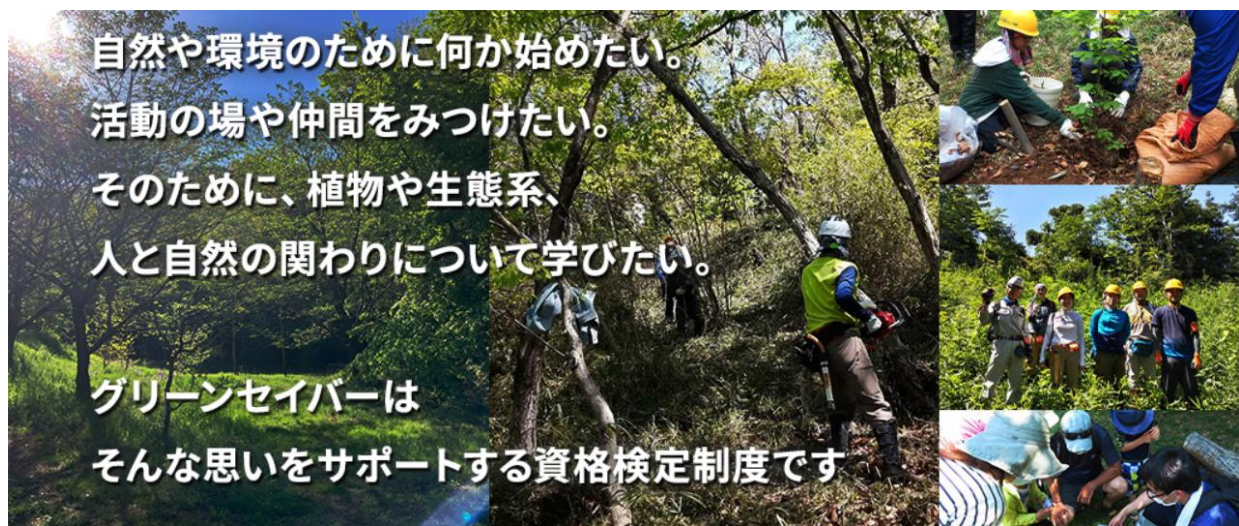


TOPICS3 清泉女子大学の整備活動&イベント

ENEOSホールディングスによる「みどりうむアクション produced by ENEOS」の活動の一つ、清泉女子大学の奥庭での森づくり活動が本格的に24年4月から開始されました。月1回の定例活動で植樹木の手入れや、山野草ガーデンのササ除去と山野草の植え付けなどを少しずつ進めました。また、このような整備の効果を確認するために、生物調査も開始しました。

周辺が市街地である中で、清泉女子大学の森は、緑のオアシスのような役割を果たしていることが推定できました。

また、24年6月には整備体験イベント、24年10月には「学研の科学 あそぶんだ研究所」とのコラボによる子供向けのイベントなど、多くの人に身近な自然への関心を高めてもらうことを目指したイベントも実施しました。



TOPICS4 グリーンセイバー検定の受験拡大

2023年度は、グリーンセイバー資格試験のネイチャー・カルチャー検定を、全国どこからでも受験できるようにと、CBT方式で開始しました。しかし、従来のように受験の設定日時は限定していたため、受験者数は伸び悩みました。

2024年度は、CBT方式のメリットを生かすために、受験期間を2週間に拡大し、その期間内で、時間も選べる方式に変更しました。また、ネット検索からも検定のページにたどり着きやすくするなど、広報面でも工夫しました。

その結果、受験者数は大幅に伸び、2023年度の2倍近くになりました。また、受験者層をみると、全国の広い地域から受験したこともわかりました。

今後も、受験期間を広く設定する2024年度の方式で続けていく予定です。



TOPICS 5 関西での活動

関西での活動において、企業との協働活動にも新しい取り組みがありました。

・活樹祭inハピロー!の森 の開催

活樹祭は「ローソン緑の募金」を活用し、全国で行っている森林体験プログラムです。今回は、はじめてとなる、京都のハピロー!の森で開催しました。ぼくらの里山ゲームによる森林教室から森林整備の体験、アウトドアクッキングなど、盛りだくさんの体験を行うことができました。

・ユニソルの森づくり活動

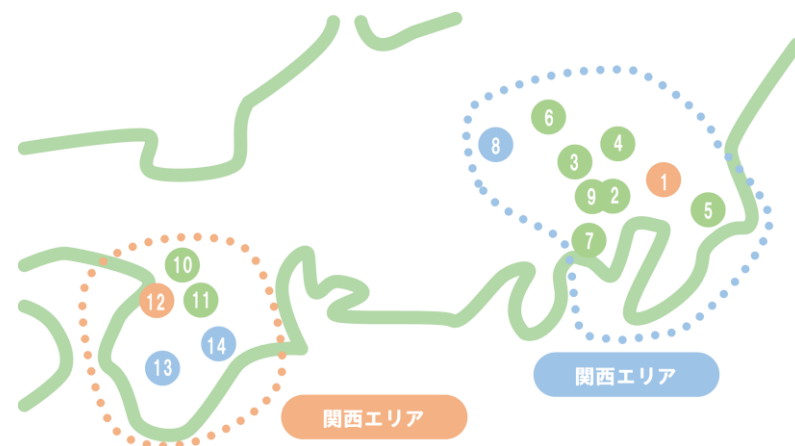
フルサト・マルカホールディングス株式会社による、企業の森づくりが兵庫県宝塚市西谷の森公園で始まりました。毎月1回、社員の皆さんが20名近く参加し、森づくりのノウハウを、当協会のグリーンセイバーが中心となって指導をしました。道具の基本的な使い方を学んだり、林床の整備を行ったり、落葉ステーションをつくって腐葉土をつくったり、常緑樹を適切に除伐したり、と毎回、新しい学びがありました。次年度は、自立にむけての準備を開始します。



フィールド事業



15箇所のフィールドにおいて、保全活動を推進してまいりました。



- 里山の保全・再生・活用
- 都市の緑を守り育てる
- 宿泊型ワーキング

関東エリア

- 町田・三輪里山フィールド
- 多摩動物公園雑木林 TAMAZO
- 武蔵野の森から学ぼう
- 千葉おぐらの森
- 嵐山ふれあいの森
- 二宮蜜柑倶楽部
- ハヶ岳ワーキング
- 本町田宿ふるさとの森
- 嵐山TLCの森 ※協働の森
- 清泉女子大学の森 ※協働の森

関西エリア

- 交野森フィールド
- 奄山ふれあいの森
- レッツ久宝探検隊・自然学習ゾーン
- 和歌山ワーキング
- UNISOLの森 ※協働の森

各フィールド活動では、継続的な保全活動を推進することができました。それぞれのフィールドで特徴のある活動が展開され、さまざまな成果も見えてきています。特にTNFD※に代表されるように社会的にも生物多様性の重要性が増してきており、森づくりへの関心はさらに高まってきています。まだ、2月に発生した活動中の事故を受け、保全活動内での安全の見直しを行い、安全第一の活動に一層の意識を向けています。

●ハヶ岳ワーキング

木道の整備補修を進めつつ、麦草峠においての特異的な環境である地獄谷周辺の整備を進めることができました。地獄谷はその名の通りの急斜面。その環境だからこその特異的な環境があり、自然環境的にも非常に面白い特徴がみられます。今後も豊かな環境を残せるよう整備を進めています。

●里山林塾の開催

里山保全の人材育成プログラム「里山林塾」も8回を迎えました。林塾を修了したメンバーはTAMAZOをはじめ、さまざまな活動で活躍をしています。里山を使い倒し、そして自然が豊かになるように、活動を展開中です。

●TAMAZO～生物調査も開始

チーム制のリーダー制度のもと、一般の参加者も増加し、地元のメンバーも増えつつあります。また、春と秋に、ライオンの森、昆虫の森の両方で、昆虫調査・植物調査を開始しました。これからデータを蓄積して、整備活動による生物相の変化を見ていきます。

森づくり協働活動

生物多様性保全や気候変動対策、また、環境教育などを目的に、企業や団体と森づくりの活動を行いました。

- ・TOPPAN(株)
- ・スミセイ情報システム(株)
- ・(株)SBI新生銀行
- ・日野自動車
- 他

2024年度活動回数(15フィールド) 213回
参加者 1,906人

※TNFD：TNFDとは、「Taskforce on Nature-related Financial Disclosures(自然関連財務情報開示タスクフォース)」と呼ばれ、企業活動における自然環境や生物多様性に関する情報を適切に開示する枠組み



グリーンセイバー資格検定～
CBT方式で受験機会を拡大

2023年度より、ネイチャー・カルチャーの検定試験を全国どこからでも受験できるCBT方式を開始しましたが、従来のように決められた日時での受験方式で実施しました。その結果、受験者数が大幅に減少してしまいました。

そこで、CBT方式のメリットを活かすべく、受験期間を2週間と広く設定し、都合のいい時間帯で受験できるように方式を変更しました。その結果、申込者は前年の約2倍に増加しました。

一方で、マスター検定の申込者がいたにも関わらず、受験者がゼロという結果に終わり、マスターの受験者数の確保に課題が残りました。

広報についても、Googleの検索システムで関心層に届きやすくなるように工夫しました。

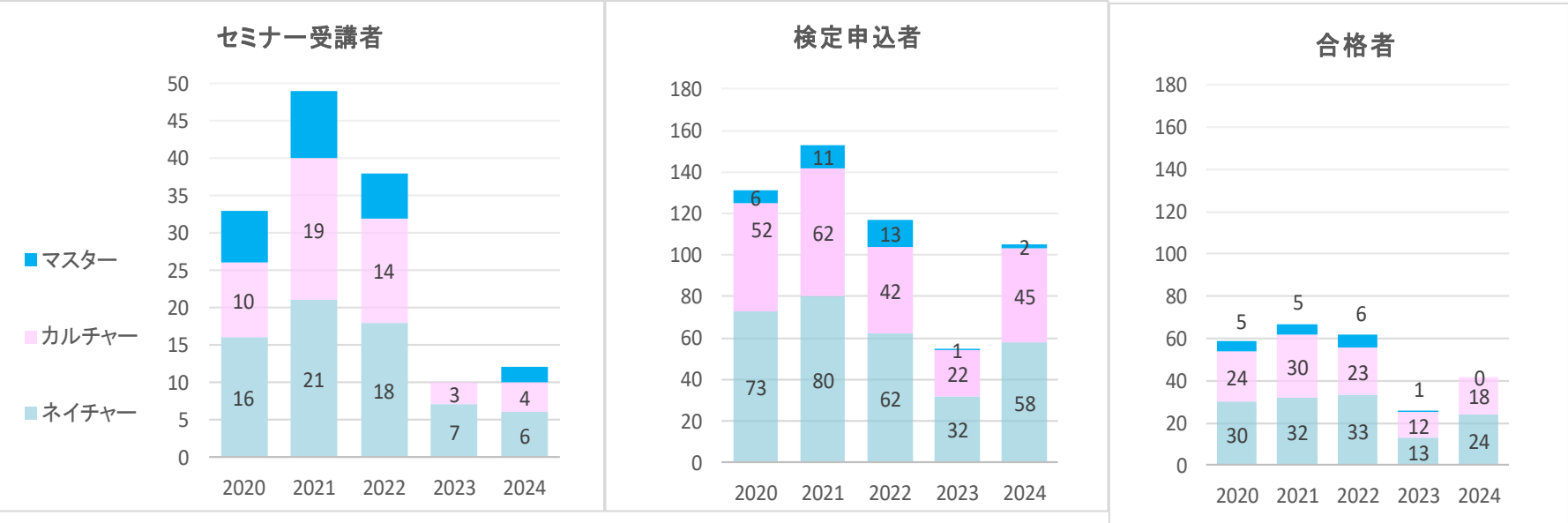
HPのグリーンセイバー検定のページを充実

グリーンセイバー検定の情報が、ホームページでわかりにくいという声をうけて、グリーンセイバー検定のことがまとめて書かれているページを整備しました。これまで、テキストやセミナーなどの情報しか載せていなかったページから、グリーンセイバー検定の全体像を示し、先輩のグリーンセイバーの活躍についても紹介したページにリニューアルしました。

グリーンセイバー企画

グリーンセイバーによる企画イベントであるグリーンセイバー企画(GS企画)がグリーンセイバー(GS)のみなさんによって企画・実施されました。

- わかりやすい樹木の見分け方・伝え方(日比谷公園)
- 植物の多彩な成長戦略を実感しよう(小石川植物園)
- ソノヤマ その景色をあなたの目で見るとの初心者向け登山ツアー(高尾山)
- アフリカの大自然を知る講座(初台区民会館)
- ススメ! 子ども忍者 in江戸城(皇居東御苑)
- GSキッズ(三輪里山)



グリーンセイバー検定は、“間違った自然保護活動”をすることがないように、植物や生態系への知識を持つことが大切だという思いから、1998年に創設された検定制度です。

正しい知識をもつことによって、自然をみる世界が広がり、自分なりの判断や考えを持つことができ、思いを実現することへ一歩近づいていくことになるでしょう。自然や環境に関わるさまざまな活動や仕事のなかで、きっと役に立つはずです。

検定に合格すると、自然に関する知識を体系的に身につけた人材としてグリーンセイバー資格が授与され、得た知識を森づくりや環境活動の場で活かすことができます。



環境 コミュニケーション事業

取
森と人を繋ぐ

多様な団体・企業・行政のみなさまと協働し、多くの活動を実施することができました。

【環境イベントの協働実施等】 14件
【森づくり関連】 9件
【環境教育・自然体験イベント等】 10件
【研修や授業の実施】 7件
【所有緑地の管理・活用】 0件
【オンライン研修等】 1件
【環境ツールの制作、企画展示】 1件

参加者 約989名(累計)
※不特定多数はカウントしていない

実施にあたり関わった指導者(累計)
GS 52名 / 一般・外部講師その他194名

協働した環境教育の実施

・KDDI(株)(小学校3校)
ICT教育と身近な自然を発見し学ぶ学習をKDDIと協働して実施しました。

・桜川中学校(116名 2回)
中学校の総合学習の時間で、里山とボランティアの体験を行う授業を行いました。事前授業の学校でのワークショップと嵐山ふれあいの森での森林保全作業を行いました。

・JALスカラシッププログラムの実施
日本環境教育フォーラムとJAL財団が運営する「JALスカラシッププログラム」は、海外留学生が環境について体験を通じて学ぶことを提供しており、24年度は海の森公園での実施に際し、コーディネートを行いました。

・活樹祭～親子森林教室
ローソンと協働したプログラム。母子家庭の親子を対象に森づくりや野外活動の体験を行いました。

宮城県川崎町、京都ハピロー!の森
千葉君津、大阪

計4回

他団体との協働イベント

・森林と市民を結ぶ全国の集い
全国の森づくりボランティアの情報交流を兼ねたシンポジウムです。実行委員として参画し、分科会等の運営を行いました。全国から参加できるようにオンラインでの開催となりました。今回のセミナーでは“森林コモンズ”がテーマで、さまざまな角度からの話題提供がありました。

・環境教育関東ミーティング
毎年行っている環境教育関東ミーティングは、関東周辺の環境教育を実践している団体や個人の交流・情報交換の場です。千葉に場所を移して実施し、今回はコロナ禍以降はじめての宿泊型でのミーティングとなりました。



企業の森づくり活動

企業の社会貢献活動として、企業の森づくり活動が動き出しました。

・清泉女子大学の学校林整備活動
品川区にある清泉女子大学で、ENEOSホールディングス株式会社の環境系社会貢献活動「みどりうむアクション produced by ENEOS」の整備活動が始まりました。当協会がその整備活動を担いました。毎月の定例活動のほかに、6月の整備活動の体験イベント、10月の「学研の科学 あそぶんだ研究所」とのコラボイベントなど、イベントにも力を入れました。

・ユニソルの森づくり活動
フルサト・マルカホールディングス株式会社による、企業の森づくりを兵庫県宝塚市西谷の森公園で開始しました。当協会がその指導役を担い、月1回の頻度で整備活動を実施しました。

緑地の生物調査

昨年度に引き続き、横浜市の緑地において、生物調査を実施しました。植物、鳥類、昆虫の項目について、各生物項目に必要な季節で実施しました。その結果は、今後の緑地の管理方針を検討するための基礎資料になります。

学生インターンの受入れ

SOMPO環境財団、DotJPによる学生インターンの受入れを行っています。インターンのみなさんには、ブログをはじめ様々な活動に参加してもらいました。

自然共生サイトの登録支援

企業の工場緑地を自然共生サイトに登録するための支援を行いました。工場緑地では、これまで長年、生物調査を当協会で行っていましたが、そのデータ蓄積をもとに資料作成を行い、今後のモニタリング計画の策定も行いました。



清泉女子大学でのコラボイベント



清泉女子大学での整備活動



ユニソルの森づくり



行政との 協働・委託事業

取
組
森と人を繋ぐ

海の森公園【東京都】

●海の森公園ボランティア

24年度も引き続き海の森公園ボランティアのコーディネート事業を受託することができました。海の森公園は当会で長年関わってきた森づくりの場です。本年は45名のボランティアが登録更新し、樹林地の整備や苗圃での草花の種まきなどのボランティア活動をおこないました。

また、3月末の海の森公園グランドオープンに向けて、ビジターセンターの展示品制作やどんぐりロードの樹名板設置など、海の森公園の来場者に対して海の森の魅力を伝えるための取り組みも実施しました。

●海の森子供レンジャー

94名の小中学生が4月から2月までの約1年間に渡り、月1回研修活動をしてきました。

研修では海の森に生息する生きものを調査し記録をする、森の育樹に関する知識や経験を養う、海の森の成り立ちを知るためにごみ処理施設の見学会、公園のオープン準備として鳥の巣箱や樹名板の作成などをおこないました。記録した生きもの調査結果や巣箱、樹名板は園内やビジターセンターに展示されております。

結果、80名が海の森公園で活動する子供レンジャーとして正式に任命されました。

まちだみどり活用ネットワーク【町田市】

町田市内の里山、農地、公園などで活動する各団体や個人をつなげることで、それぞれが抱える課題解決につなげたり、豊かなみどりを活かすことで、町田市の魅力向上と周辺地域の活性化することを目指し、23年度に設立。このバックオフィスとなる事務局業務を担っています。初年度はその基盤となるパンフレット等の広報ツール制作や各会員のつながりを築くコミュニティ構築を行ってきましたが、24年度は、各実行委員会主催のイベントやワークショップ等のサポート業務のほか、会の認知度向上と構成メンバーの更なる拡大を目的にシンポジウムの開催と連続ワークショップを実施。新たな会員獲得に繋がりました。

主な活動（イベント）

- ・ずしまちいち（図師日影坂下公園 7月）
- ・春・秋の里山体験ファミリーワークショップ（大谷里山農園 4月・10月）
- ・シンポジウム（町田市健康福祉会館 10月）
- ・連続ワークショップ（ヨリドコ小野路宿・大谷里山農園 25年1月・3月）

埼玉県産材を使った木製品の制作【越谷市】

越谷市では“森林環境譲与税”を活用した、埼玉県産材の有効活用に取り組んでいます。当協会は、SDGsピンバッジ、木製盾の制作を受託し、嵐山ふれあいの森で産出された杉材を使い制作することで、この取組を後押ししました。



広報・運営

報 廣
營 運

聚レターのリニューアル

聚レターの制作プロセス、スケジュール、コストなどを見直し、これまでの年4回発行、各16ページから、年3回発行、各20ページに変更。ページ数が増えたことを活かして活動報告を拡充させるとともに、テーマ性の高い特集を掲載しました。

169号の「海の森プレオープンイベント報告」は楽しそうな様子が伝わるデザインに仕上がリ、170号の「ネイチャーポジティブ」、171号の「熱中症対策と温暖化」は、各分野の専門家の方に貴重なお話を伺うことで、タイムリーで興味深い内容になったと自負しています。

HPの部分的な改善

協会ホームページの全面的なリニューアルから約8年。活動や事業内容の変化、情報発信ツールの多角化などによりHPの役割や使い方も変化し、使いにくい点も散見されるようになりました。

全体の見直しも徐々に進めますが、検定のCBT方式を導入により申込方法が変わったこと等を鑑み、適したホームページに更新しました。

SNSの強化と広告出稿

これまで協会のSNSとしてはフェイスブックとX(旧ツイッター)をメインに運用してきましたが、利用者数や社会的な影響力という意味ではInstagram、ティックトックなどが主流となりつつあり、特に若年層には後者の利用者が多いことがわかっていいため、より幅広い年代の方にアピールするために、Instagramのアカウントを開設。東京事務局と関西聚がそれぞれのアカウントで活動報告を中心に投稿しています。

また、グリーンセイバー検定の申込期間に合わせて、検索機能を活用したgoogle広告を出稿。検索ワードを選び、興味のありそうな方の目にふれる機会が増えるよう設定しました。25年度はInstagramにも出稿予定です。



30周年に向けての情報発信をスタート

25年9月19日に創立30周年を迎えるにあたり、「30周年記念ロゴマーク」を作成。聚レター171号にロゴとともにステートメントを掲載し、チラシ類にもロゴマークを使用するなど、9月20日に予定している記念イベントへの機運醸成を図るための情報発信をスタートしました。

パートナーズ・ボイス・プロジェクト

コロナ禍で会員や関係者の皆さんと直接お目にかかる機会が減ったことをきっかけにスタートしたオンライン交流会「パートナーズ・ボイス・プロジェクト」。これまで、6回の意見交換会を実施しましたが、全国の皆さんとざっくばらんな“井戸端会議”をおこない、そこで出た意見が新たな活動に発展するなど、とても有意義な時間を共有できています。

コロナ禍も落ち着き、一定の成果をあげることができたと判断し、2025年1月18日に実施した第6回意見交換会「フィールドの魅力と課題を語る」で一区切りとさせていただきます。今後とも皆さんと交流する機会を設けたいと考えていますので、よろしくお願いします。





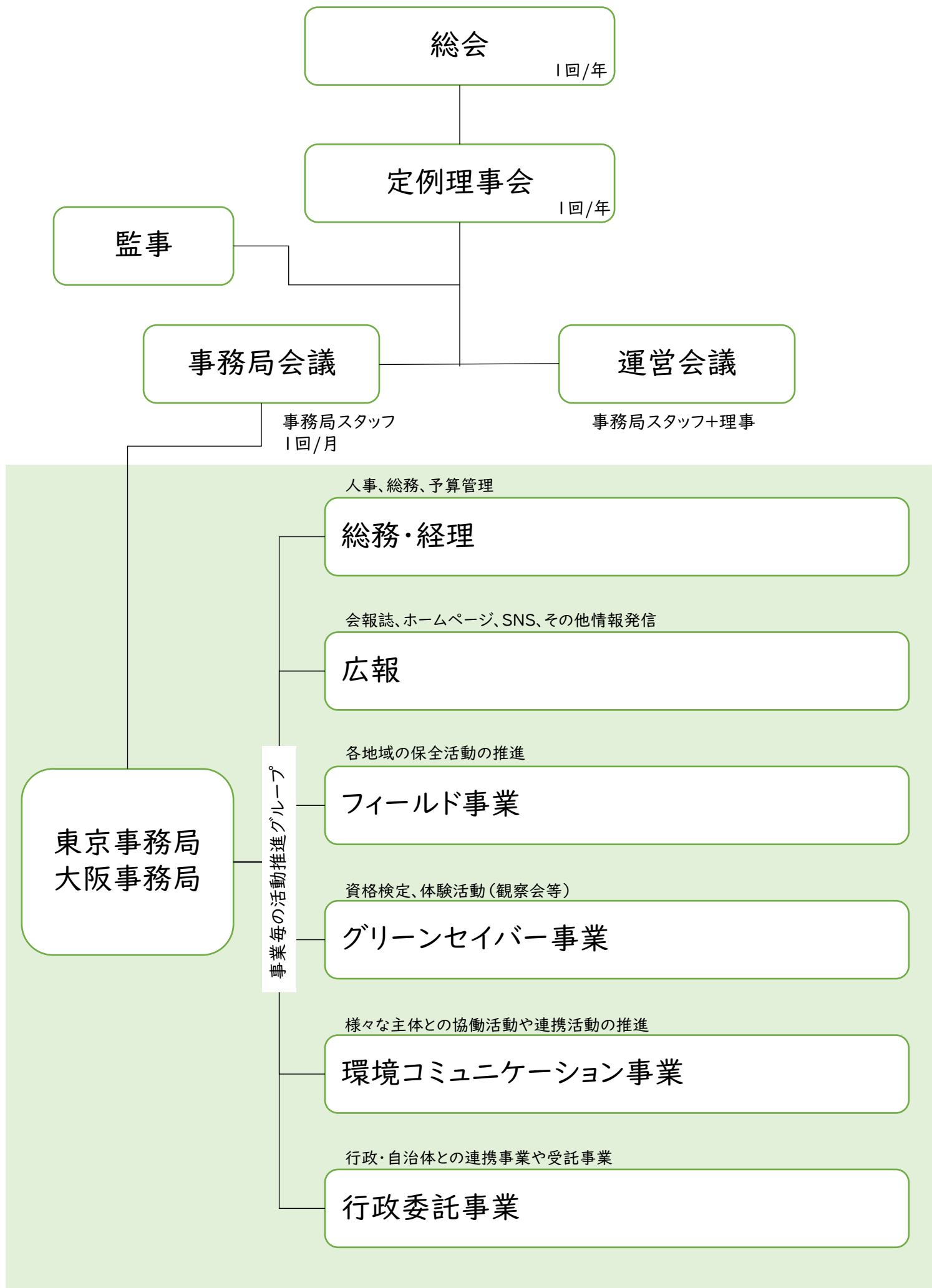
【顧問】山本 光二	樹医
【顧問】澁澤 寿一	前理事長
【理事長】清水 善和	駒澤大学総合教育研究部元教授
【専務理事】佐藤（中西）由美子	グリーンセイバー・マスター
【理事】小久保 広宣	関西聚スタッフ
【理事】築野 敬二郎	株式会社アテナ 取締役役員
【理事】岡本 俊彦	グリーンセイバー・マスター
【理事】片山 雅男	神戸教育短期大学児童教育学科元教授
【理事】川端 自人	グリーンセイバー・マスター
【理事】小林 健人	NPOフュージョン長池 理事
【理事】後藤 洋一	事務局長
【理事】塚本 秀貴	グリーンセイバー・マスター
【理事】広瀬 攻	三輪里山フィールドリーダー
【理事】松浦 晃	株式会社 つくば林業
【監事】三尾 隆志	公認会計士
【監事】吉田 寛	公認会計士 公会計研究所 代表

【事務局スタッフ】

専務理事 中西 由美子
 理事・事務局長 後藤 洋一
 スタッフ（東京）石崎 庸子
 スタッフ（東京）加藤 武
 スタッフ（東京）中西 規章
 スタッフ（東京）大西 智野子
 スタッフ（東京）小口 純子
 スタッフ（東京）松尾 茉里子
 スタッフ（東京）天野 達郎
 スタッフ（東京）田島 泰子
 スタッフ（大阪）山本 睦子
 スタッフ（関西）小久保 広宣



NPO法人樹木・環境ネットワーク協会 運営・組織図



2024年度 財務報告

収支・成果報告

※この成果報告書は吉田寛氏の「公会計における財務諸表利用者としての納税者」
『(国府台経済研究第13巻第1号)』に掲載された表示形式を利用しています。

発生費用の部: 活動のためにかかった費用		非営利活動	
		2023年度	2024年度
事業費	総務・管理	¥4,159,768	¥5,668,105
	広報	¥3,230,658	¥3,434,010
	グリーンセイバー事業	¥1,752,977	¥1,967,494
	フィールド活動事業	¥4,819,445	¥3,700,825
	環境コミュニケーション事業	¥4,658,913	¥8,518,807
	行政委託事業	¥12,837,197	¥13,388,584
税金	法人税・住民税・事業税	¥150,000	¥150,000
棚卸高	期首商品棚卸高		
	期末商品棚卸高		
発生費用合計		¥31,608,958	¥36,827,825

費用負担の部: その費用は以下のように負担しました。		非営利活動	
		2023年度	2024年度
受取会費	会費負担分	¥2,925,000	¥2,537,000
受取寄付金		¥8,840,301	¥3,046,868
受取助成金		¥150,000	¥250,000
事業費収入	グリーンセイバー事業	¥1,488,411	¥1,563,809
	フィールド活動事業	¥5,925,668	¥5,229,879
	環境コミュニケーション事業	¥4,671,018	¥13,597,690
	行政委託事業	¥14,036,130	¥18,665,000
事業外収入	雑収益・受取利息	¥62	¥3,169
費用負担額合計		¥38,036,590	¥44,893,415
当期正味財産増減額		¥6,427,632	¥8,065,590

貸借対照表

(単位 :円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金	89,574	未払金	4,451,414
普通預金	7,603,912	前受金	1,219,000
郵便振替口座	606,082	預り金	73,226
未収金	23,975,442	仮受金	274,887
前払費用	162,800	流動負債合計	6,018,527
流動資産合計	32,437,810		
		2 固定負債	0
2 固定資産			
有形固定資産		負債合計	6,018,527
車両・運搬具	453,600		
減価償却累計額	△453,599	III 正味財産の部	
有形固定資産合計	1	前期繰越正味財産	18,782,894
無形固定資産		当期正味財産増減額	8,065,590
商標権	74,000	正味財産合計	26,848,484
敷金	355,200		
無形固定資産合計	429,201		
固定資産計	429,201		
資産の部合計	32,867,011	負債・正味財産の部合計	32,867,011

寄付・助成金

寄付 助成金

SDGsの達成に向け、気候変動対策や生物多様性保全はますます重要になっています。社会的な関心も大きくなってきています。活動が継続的かつ円滑に進むよう、ご寄付は大切に活用させていただきます。

ご支援いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

2024年度の寄付および助成金等の実績は以下のとおり

●寄付

個人の寄付

25件

合計118,000円

法人・団体の寄付

- ・KDDI(株)
- ・(株) ジャックス
- ・ベーカー&マッケンジー
- ・ジャンボインターナショナル(株)
- ・(株) Salad (GREEN PARKマラソン)
- ・ACワークス(株)

寄付プログラム

- ・OSUSO (オスソ)
- ・KDDI「キボウのカケハシ」
- ・SoftBank「つながる募金」
- ・ボードレスジャパン「ハチドリ電力」
- ・(株)ブギ(本棚お助け隊)

6件

合計2,504,621円

5件

合計424,247円

●助成金

- ・埼玉県寄居林業事務所(嵐山フィールド)

1件

合計250,000円

個人情報保護の観点から個人名の記載は控えております。あらかじめご了承ください。

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会の
2024年度決算について監査の結果、事業報告は事業の内容
を適切に反映していると認めます。

2025年4月9日

特定非営利活動法人
樹木・環境ネットワーク協会

監事 三 尾 隆 志 

三 尾 隆 志

監事 吉 田 寛 

吉 田 寛



団体概要

【組織】

団体正式名称 特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会

設立 1995年9月19日

ホームページ <https://www.shu.or.jp/>

○東京事務局

[住所] 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6

日本分譲住宅会館ビル8階南

[Tel] 03-5244-5447 [Fax] 03-5244-5448

[Mail] info@shu.or.jp

○大阪事務局

[住所] 〒576-0033 大阪府交野市私市5丁目17番11号

[Tel] 072-893-1716 [Fax] 072-892-3247

[Mail] kansai.syul@nifty.com

[HP] <http://kansaisyu.o.oo7.jp/index.html>